

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	47人	算数	47人	理科	47人
第5学年	国語	34人	算数	34人	理科	35人

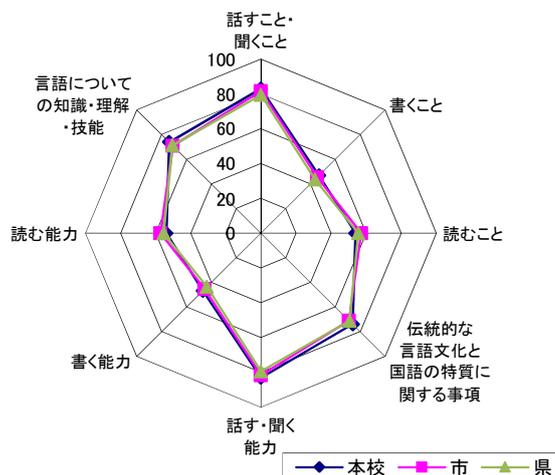
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	83.0	81.6	79.4
	書くこと	46.8	45.4	43.6
	読むこと	53.9	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.0	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	83.0	81.6	79.4
	書く能力	46.8	45.4	43.6
	読む能力	53.9	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	74.0	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

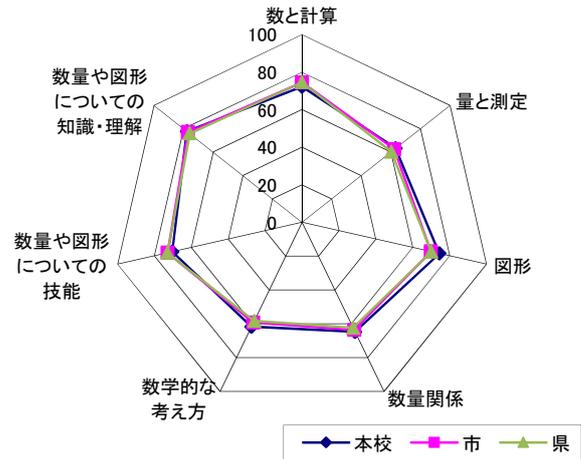
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は、市の平均をやや上回っている。</p> <p>○話し合いにおける司会者の役割について理解している。</p> <p>●発言を聞いて整理したりまとめたりすることに課題が見られる。</p>	<p>・話すこと・聞くことの領域では、学んだことを生かして問題が解けているので、今後も話し合い活動を充実させながら力を伸ばしたい。</p> <p>・発言を聞いて整理したりまとめることに課題が見られるので、授業中など、友だちの発言に付け加えたり、比較しながら聞けるように指導していきたい。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は、市の平均をやや上回っている。</p> <p>○メモをもとに、報告レポートに適切な内容を書き入れることができている。</p> <p>●条件にあった記述式の設問において無答が多い。</p>	<p>・記述式問題で無答が見られるので、自主学習での日記指導や、授業での振り返りの時間を活用して、日頃から書くことに慣れるように指導していきたい。</p> <p>・条件を付けた作文指導を行い、主語、述語、形容詞を確実に書けるように指導していきたい。</p>
読むこと	<p>●平均正答率は、市の平均をかなり下回っている。</p> <p>○文章を読んで段落の要点をとらえて読むことができている。</p> <p>●細かい点に注意しながら読み、整理することや、人物の気持ちを想像して読むことに課題がある。</p>	<p>・本を読む習慣をしっかりと定着させるため、家庭学習の音読や図書室を有効に活用し、読む意欲をまず、持たせたい。</p> <p>・授業では、文章中に書いてある言葉から読み取る力と、文章を基に想像しながら読み取る力を身に付けさせたい。一人一人のつまずきを把握しながら、文章問題の復習を取り入れ、読む力を確実に養いたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○平均正答率は、市の平均をやや上回っている。</p> <p>○漢字の読み書きについては定着している。</p> <p>●ローマ字による書き方については課題が見られる。</p> <p>●国語辞典で言い切りの形で調べることに課題が見られる。</p>	<p>・漢字の読み書きなどの基礎学力は定着してきているので、引き続き、繰り返し練習させたい。特にテストなどで間違えた漢字を自主的に練習できるよう声掛けをしていきたい。</p> <p>・ローマ字は、外国語活動でも、重点的に復習していきたい。</p> <p>・国語辞典は、学校に自分の辞書を置いておけるように家庭にも呼び掛け、授業中に活用できる場を多く持てるようにする。</p>

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.3	74.5	74.6
	量と測定	63.3	62.4	60.4
	図形	74.5	69.9	70.1
	数量関係	64.7	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	61.7	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	70.4	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	77.8	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

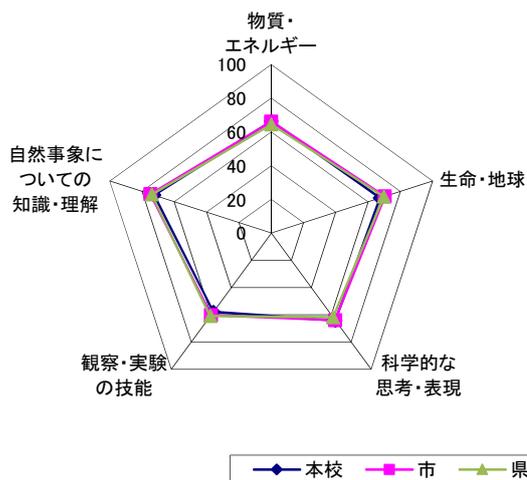
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○1万を超える数の数直線の1目盛の大きさは、よく読み取れている。</p> <p>●平均正答率は市の平均より2.2ポイント低い。</p> <p>●テープの長さをもとに何倍かを求める問題や、計算の順序に合うように()を書き入れる問題、3位数×2位数=4位数の問題で課題が見られる。特に、()の問題は市よりも13.6ポイント正答率が低い。</p>	<p>・授業中には、習ったことを生かして考えられるようにして指導したい。また、朝の学習を生かして、特に苦手な単元を重点的に復習していきたい。</p>
量と測定	<p>○はかりが示す重さを読み取る問題や、木の幹の周りの長さを測るのに適した道具を選ぶ問題など、実際に体験しながら学習したことに関しては、よくできている。</p> <p>●ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める問題に関しては市よりも7.3ポイント正答率が低く、課題が見られる。</p>	<p>・体験したことや日常の場面は児童にとってもイメージしやすいようなので、今後も実物を用いた導入などに工夫していきたい。</p> <p>・時刻と時間に関しては、応用問題を練習する必要があるため、日常の場面でも時刻を意識したり時間の計算を取り入れたい。</p>
図形	<p>○円の直径の長さを求める問題や箱に入った同じ大きさのボールの半径の長さを選ぶ問題など、活用問題に関してはよくできていた。解いたことのある問題形式で、図から分かりやすく答えを導き出せる問題だったと思われる。</p> <p>●コンパスで正三角形を書く問題では課題が見られる。</p>	<p>・コンパスを使った操作活動は、繰り返し復習することで定着を図りたい。</p>
数量関係	<p>○未知の数量を□として、数量関係を表した線分図を選ぶ問題は、よくできている。線分図やテープ図と対応させてノートにしっかり書いていた成果だと思われる。</p> <p>○棒の高さが同じでも表す人数は異なることを記述する問題では、市より12.2ポイント正答率が高い。記述式にも慣れ、理由を書ける児童も多く見られる。</p> <p>●棒の高さが同じでも表す人数は異なることを記述する問題では、無回答率も高いので個人差があることが課題である。</p> <p>●□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ問題は課題が見られる。文章を読み取ることや、□をどのように処理して考えればいいのかを解決できないと思われる。</p>	<p>・□を使った問題は、既習事項を思い出せる掲示物を活用したり、線分図などを実際にかく活動も引き続き取り入れたい。定着が図れるように指導をしていきたい。</p>

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.3	66.1	64.4
	生命・地球	67.4	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	64.2	64.1	61.9
	観察・実験の技能	58.0	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	72.5	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○正答率は市の平均正答率より0.2ポイント高い。</p> <p>○ものと重さに関する設問の正答率は、市の平均より8.6ポイント高い。</p> <p>○物の形と重さや、体積と重さの関係が分かるに関する設問の正答率は、20.1ポイントと市の平均正答率を特に上回っている。</p> <p>●光の性質は、市の正答率よりも6.7ポイント低い。</p> <p>●設問別正答率は、日光を重ねたときの明るさと温度の変化を考察について、市の平均より9.1ポイント低い。</p>	<p>・実際に自分で操作をした実験に関しては定着が図れている。引き続き児童が自分で操作してできる活動を取り入れていきたい。</p> <p>・光の性質では、天候や場所によって実験を行うのが難しい児童もいた。日光を重ねたときの明るさと温度の実験では、段階を踏んで児童と一緒に明るさや温度を確認する活動が必要であると考えます。</p>
生命・地球	<p>●正答率は市の平均正答率より3.0ポイント低い。</p> <p>○身近な自然の観察に関する設問は、市の平均より4.8ポイント高い。</p> <p>○設問別正答率では、虫眼鏡の適切な使い方に関する設問の正答率が、5.6ポイント高い。</p> <p>●太陽と地球のはたらきについて設問の平均正答率が、市の平均正答率よりも6.9ポイント低い。</p> <p>●設問別正答率は、方位磁針の適切な操作方法に関する設問の平均正答率が市の平均正答率より16.6ポイント低い。</p>	<p>・身近な自然の観察は実際に校庭やまごころ広場に行き生き物を見ることによって観察の仕方を身に付けることができているので、引き続き指導をしていきたい。</p> <p>・太陽と地球のはたらきについては、児童にとって身近でないもので理解しにくいところであるので、資料映像や天体模型など視覚的に分かる教材を取り入れて指導をしていきたい。</p>

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

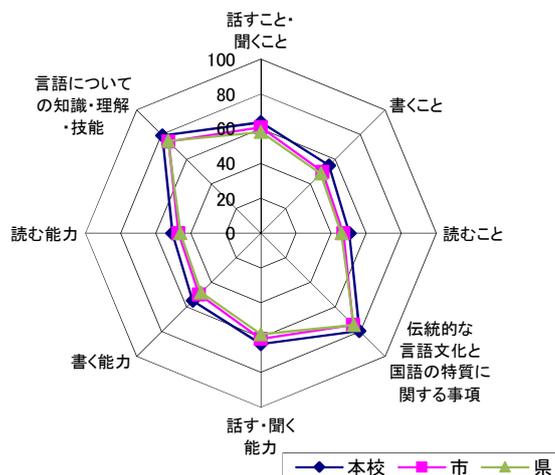
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「毎日、同じ時刻に寝ている」と回答した児童は87.0%で、県平均よりも9.9ポイント、市平均よりも8.4ポイントも高く、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。
- 「学習して身に付けたことは将来の仕事や生活に役立つと思う」の肯定的な回答は95.7%で学習の必要性は感じている。
- 「学校での毎日の生活が充実していると感じている」の割合は89.1%で、多くの児童は学校生活に対して充実感を持って生活を送ることができている。
- 「グループなどの話合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答は84.8%、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定的回答は80.4%であり、クラスの中で友達と自分の意見を出し合い考えることは意欲的に取り組んでいる。
- 勉強していて「不思議だな」「なぜだろう」と感じる児童の肯定的割合は74.5%であるが、「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」は59.5%、「難しい問題にであうと、よりやる気がでる。」は51.1%であった。学習の中で疑問や課題を感じることがあるが、問題の難易度が上がった時、疑問に思ったことを最後まで追究しようとする意欲は弱い。日頃の授業で基礎的・基本的な学習をおさえると共に、基礎的・基本的な内容を発展させた問題にも取り組ませていきたい。
- 「自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と感じている児童が54.3%であった。自分の考えたことを文章にすることに抵抗がないように、いきなり文章を書く作業をするのではなく、まずは単語や短い言葉で集めてから文を組み立てるなど段階を踏んで文章を書けるように指導していきたい。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	63.7	60.8	58.1
	書くこと	54.9	49.8	48.3
	読むこと	50.5	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.4	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	63.7	60.8	58.1
	書く能力	54.9	49.8	48.3
	読む能力	50.5	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	79.4	74.4	74.8



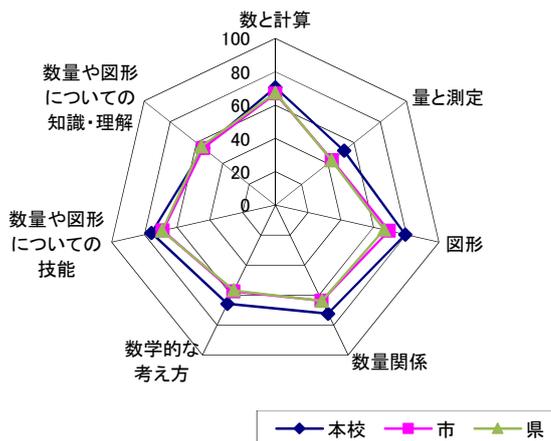
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は、市の平均を2.9ポイント上回っている。特に、話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話す設問では、発言の仕方について正しい方法を選択することができていた。正答率が市の平均よりも約15ポイント高かった。</p> <p>●話し合いの際、司会としての役割を考える設問での正答率が、市の平均正答率よりも5ポイント低かった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・ペアやグループでの話し合い活動を取り入れた際には、司会者や発表者のように役割を分担し、一人一人が意見を発表したりまとめたりするような機会を意図的に設けるようにしていく。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は、市の平均を5.1ポイント上回っている。掲示物に書いた文章に合う資料を選ぶ設問やインタビューから伝えるべき要点をまとめて書く設問での正答率が、市の平均と比べても約15ポイント高かった。</p> <p>●資料を基に説明する設問では正答率が14.7%で、市の平均と比べても14.8ポイント低かった。</p>	<p>・写真やグラフ、表などの特徴を理解させ、自分が伝えたい内容に適したものを選ぶようにする。また、社会や総合的な学習の時間など他教科との関連を図り、資料を活用しながら書いたり、まとめたりする場面を意図的に設けていく。</p>
読むこと	<p>○登場人物についての描写から心情を想像して読むことや、叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読む設問での正答率が高かった。全体的な平均正答率も市の平均を3.5ポイント上回っている。</p>	<p>・授業においては、叙述から登場人物の心情に迫ったり、段落と段落の関係を表に整理したりする活動を多く取り入れ、さらに習熟を図っていく。また、朝の読書の時間や家読を活用し、必読書や長編小説などにも挑戦するように呼び掛けていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○正答率は市の平均を5ポイントを上回っている。ローマ字の読みをこたえる設問での正答率が94.1%、漢字辞典の使い方での正答率が82.4%となっており、市の平均を大きく上回っていた。</p> <p>●漢字の書き取りでは、正答率が市の平均より、32.2ポイント下回っている設問もあった。また、慣用句での正答率が低かった。</p>	<p>・漢字練習やプリント学習を繰り返していくことで、定着を図っていく。また、日常的に漢字を使って文章を書かせたり、自主学習として既習の漢字や慣用句の復習を課したりしていく。</p>

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.6	66.9	67.4
	量と測定	52.4	43.2	43.0
	図形	79.4	69.4	66.5
	数量関係	72.4	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	65.8	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	75.6	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	54.9	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

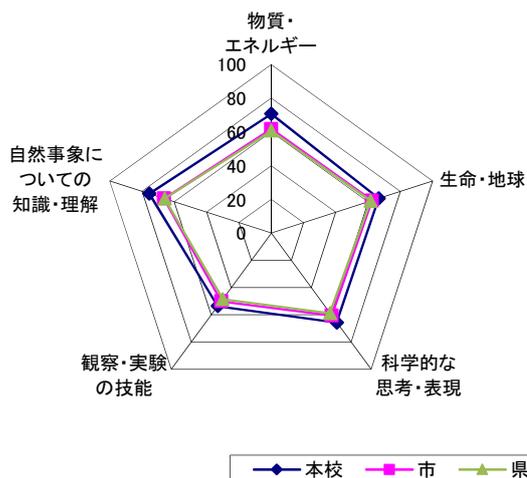
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○正答率は70.6%で、市の平均を3.5ポイント上回っている。</p> <p>○基本的な計算問題での正答率が高い。特に、3位数×2位数=4位数の計算では、市の平均を18.4ポイント上回った。</p> <p>●「小数」の、1.8は0.01を何個集めた数かを求める問題では、本校の正答率は41.2%で、市の平均を7ポイント下回った。</p>	<p>・十進数の仕組みについて押さえるとともに、十進位取りについての補充問題を解かせるようにする。</p>
量と測定	<p>○正答率は52.4%で、市の平均を9.2ポイント上回っている。全ての設問で市の平均を上回っている。</p> <p>○1mの正方形の辺に1cmの正方形が何枚並ぶか求める問題の正答率は70.6%で、市の平均を15.5ポイント上回った。</p> <p>●式と図に合う複合図形の面積を求める方法を説明する問題では、市の平均を15.2ポイント上回っていたものの、学力層によって正答率の差が大きく開いている。</p>	<p>・複合図形の問題に多く触れさせたい。</p> <p>・基礎的な図形の面積の問題に多く触れさせ、複合図形のとらえ方に多く触れさせる機会を持つようにする。</p>
図形	<p>○正答率は79.4%で、市の平均を10ポイント上回っている。全ての設問で市の平均を上回っている。</p> <p>○与えられた2辺の続きをかくて、平行四辺形を完成する問題の正答率は70.6%で、市の平均を11ポイント上回った。</p> <p>●与えられた条件を基に、平行四辺形を作図する問題では、市平均より11ポイント上回ったものの、無解答があった。</p>	<p>・平行四辺形を作図する方法について再度おさえるとともに、実際に三角定規やコンパス、分度器に触れさせ、使い方をおさえさせるようにする。</p>
数量関係	<p>○正答率は72.4%で、市の平均を8.7ポイント上回っている。全ての設問で市の平均を上回っている。</p> <p>○図や表から変わり方を考え、表に当てはまる数を求める問題の正答率は100%であった。</p> <p>●長文から分かる情報から考えを見つけて説明する問題では、市の平均は上回っているものの、正答率は低い傾向がある。</p>	<p>・長文の要旨を捉える練習をさせ、国語科と文章の読解についての力をつけていくことで、問題の題意を読み取る力を醸成する。</p>

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	70.7	61.7	60.7
	生命・地球	66.5	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	65.7	60.6	58.9
	観察・実験の技能	53.6	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	75.5	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○正答率は市の平均正答率より9ポイント高い。</p> <p>○金属・水・空気と温度に関する設問の平均正答率が高い。特に金属の温まり方やペットボトルを凍らせない理由、沸騰させた際に水の中から出てくる泡の正体を答える設問における正答率は、市の平均正答率より20ポイント以上高い。</p> <p>●白く見える物の正体が湯気という液体の水であることを答える設問での正答率は20%で、市の平均正答率より9.3ポイント低い。</p>	<p>・水蒸気と湯気の違いを動画等で確認させながら、湯気と水蒸気の違いについてしっかりと理解を図ってきたい。</p>
生命・地球	<p>○正答率は市の平均正答率より4.1ポイント高い。</p> <p>○オオカマキリの図と同じ季節のヘチマの様子を答える設問における正答率は71.4%で市の平均正答率より7.4ポイント高い。</p> <p>●気温の変化から天気の様子を推測し、理由を答える設問における正答率が市の平均正答率よりも3.1ポイント低い。</p>	<p>・記録温度計を使用しての学習を取り入れながら記録温度計に触れる機会を持たせるようにし、気温の変化と天気との関係を考察させることで、気温の変化と天気についての関連性を明確にとらえさせるようにする。</p>

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○質問項目に対する肯定的回答の割合が全体的に高い。その中でも「学びに向かう力」に関する項目が高く、「学校の宿題は、自分のためになっている」、「将来の夢や目標を持っている」「学校での役割や係の仕事に責任を持って取り組んでいる」の項目では、肯定的回答の割合は95%を超えており、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の項目では、全員が肯定的回答をしている。前向きな姿勢で学習に取り組むことができているので、引き続き、意欲を高めていけるよう、指導していきたい。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の項目では肯定的回答の割合は91.4%で、市の平均より8.1ポイント高い。「クラスは発言しやすい雰囲気である」の項目では肯定的回答の割合は88.6%で、市よりも6.9ポイント高く、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」では肯定的回答の割合は80%で、市よりも4.9ポイント高い。「発言しやすい雰囲気の中で話し合い活動が進められており、「対話力」が身に付きつつある。

●「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の項目では肯定的回答の割合は57.1%で、市の平均よりも10.6ポイント低い。「家で、計画を立てて復習している」、「家で、学校の復習をしている」の項目については、どちらも肯定的回答の割合が74%を超えており、市の平均よりも高いことから、学校でのやり直しで理解が深まっていることも考えられる。さらに理解を深めるために合言葉にして、家庭学習の効果的なやり方について考えさせていきたい。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の項目については、どちらも肯定的回答の割合が80%を超えており、市の平均よりも高い。しかし、二極化の傾向が見られ、話し合い活動に積極的に参加できなかったり、考えが深められなかったりする児童も見られる。話し合いの手順を明らかにしたり、個別指導したりすることで、自信を持って話し合い活動に取り組めるようにしていきたい。

宇都宮市立城山中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学習のまとめと振り返りの活動の工夫	・学習のまとめと振り返りの仕方について、職員で共通理解を図り、学習に応じたまとめと振り返りを行う。	・学習のまとめと授業後の振り返りの活動についての意識が高まってきており、習慣化が図られてきた。しかし、自分の考えを書くことが難しいと感じている児童も見られることから、さらに学習効果を高めることができるような活動にしていく必要がある。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
叙述を基に、登場人物の心情を読み取る問題での課題が見られた。	読解力を高めるための工夫	授業場面において、指導の工夫、改善を図るとともに、辞書を活用して語彙力を高めたり、学校図書館を利用したりするなどし、読解力を高められるようにする。